

令和元年度第1回遠軽町まちづくり会議（全体会議）記録

- 日 時 令和2年2月3日（月）19時00分～21時00分
- 場 所 遠軽町福祉センター4階1号青少年会議室
- 出 席 24名
- 欠 席 8名
- 町出席者 町長、総務部長、企画課長、企画課主幹、企画課係長、各総合支所長
- 会議内容（主な発言を収録。内容は要約している。）

1 委嘱状交付



2 開会 19:00 開始 佐藤企画課長

3 町長あいさつ

- ・本会議は、町村合併に関する法律に基づいて置かれた地域審議会が前身。
- ・15年前に町村合併をなぜ行ったかを踏まえて、未来のことを考えてほしい。
- ・意見をいただくのではなく、お互いに本音をぶつけ合って考えていきたい。
- ・わからないことがたくさんあると思う。行政のことは職員が詳しいのでぜひ、聞いてほしい。
- ・地方創生や地域活性化は誰でも言えるが、根っこの部分から議論する会議になってほしい。

4 町職員の紹介

5 町長講話

(1) 自治体の役割とは

- ・国と地方自治体は権限も位置付けも大きく違う。市町村が発生した時の役割は道路や水道などのインフラ整備と義務教育だった。その後遅れて医療、産業振興、雇用、防災などの役割が加わった。道の駅などに目が行きがちだが、インフラで



ある浄水場の整備もしっかりやってきた。これが基本だと考えている。その役割を果たすには財政と経済が重要。

(2) 遠軽とはどういう町か

- ・遠軽は、この地方の中心地として存在意義がある。遠軽の1次産業従事者は8%ぐらいで比較的少ない。近隣の地域はだいたい20%ぐらい。しかし、少ないから重要ではないということではない。遠軽は近隣の1次産業の上に成り立ち、そのための医療や教育の機能を引き受けている。
- ・オホーツク地域は道内14振興局管内で1次産業はどれも1番か2番の地域。その2分の1が遠紋地域、この地域をしっかり守っていくことが遠軽の役割であり、国へ貢献しているところである。
- ・JR問題も「我々の地域が困る。」だけでは、国は動いてもらえない。理屈を立てて、地域の価値を訴えていかなければならない。

(3) 財政と人口減少について

- ・財政が非常に厳しいため合意して町村合併をした。しかし、その時のことが忘れられてきている。これは後で触れる。
- ・合併した理由のもう一つは人口減少。財政は大分良くなったが、人口推計は予想どおりに進んでいる。まだ40～50年は人口減少が進むのは間違いない。そこを押さえて、どうやっていくか考えなくてはならない。過去から頭を切り替えてやっていく必要がある。財政をうまく使って経済を回していくことが大事。

(4) 町の経済について

- ・経済では自衛隊の存在は非常に大きい。厚生病院も遠軽高校も自衛隊の存在がなければ維持できない。そうすると、1次産業従事者が医療を受けられなかったり、子どもに十分な

教育が与えられなくなったりする。このために存置活動を行っている。

- 厚生病院の産婦人科については、湧別・佐呂間と連携して、正直ここまでやるかということまでやった。週刊誌広告、電車広告ジャック、ダイレクトメール、そのおかげで今、2人の医師を確保できた。
- 道路整備について、いいところもちろんあるが、悪い影響もある。折り込み済みで考えている。他のルートもあり得た。そうなら、ひどい状況だったと思う。
- J R北海道の問題は、道内でいくら訴えても意味がない。東京で訴える必要がある。
- 都市V S 地方、高齢者V S 若者という議論になるのは残念。全体を広く見て、日本や地域のことを考えていかなければならない。

(5) 合併後の一体感について

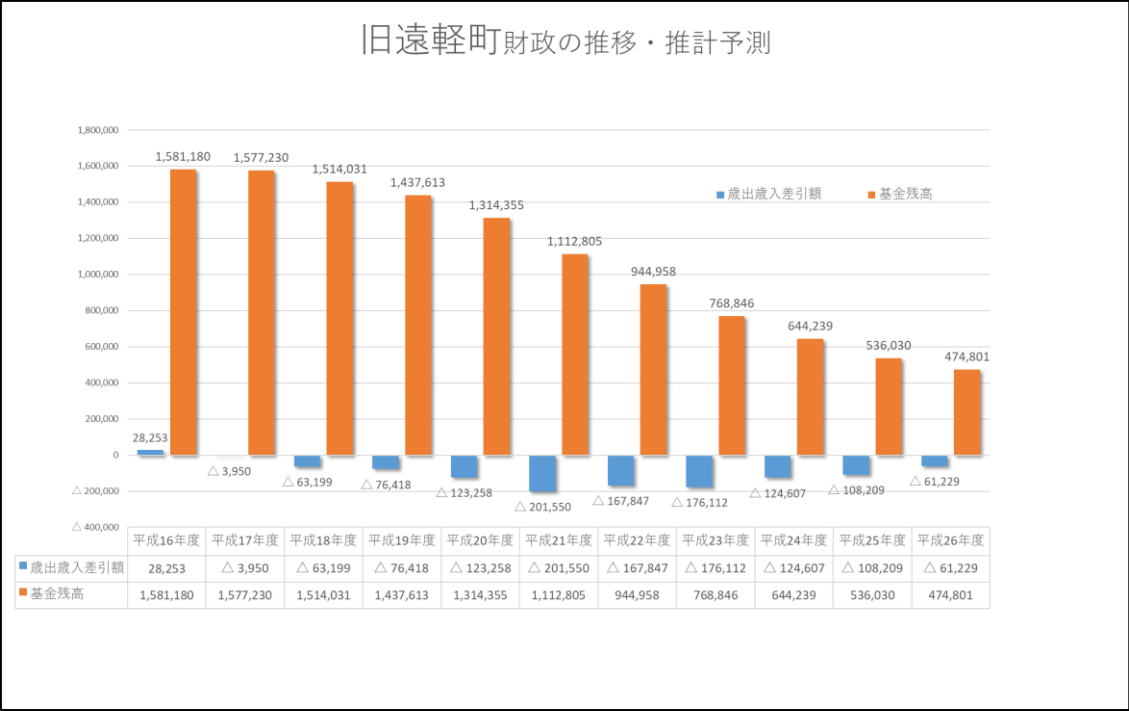
- それぞれの地域のお互いの我慢が必要。もし、合併していなかったらどうなっていたかを理解しなくてはならない。昔には絶対に戻したくない。



(6) 合併協議会における財政予測について

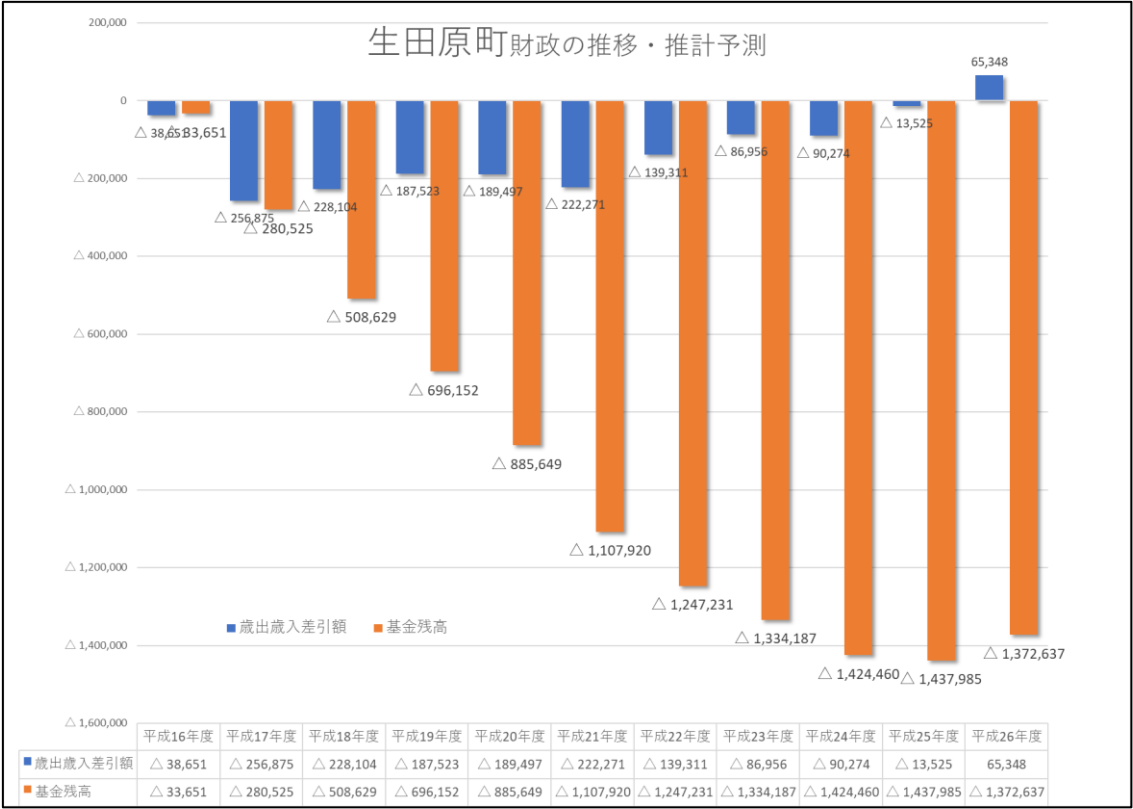
(旧遠軽町)

- このグラフは、旧遠軽町の基金（町の貯金）と収支差額を示している。基金がだんだん減っていったら、4億7千万円まで落ちる。収支差がプラスになって行かないところが旧遠軽の危険なところ。



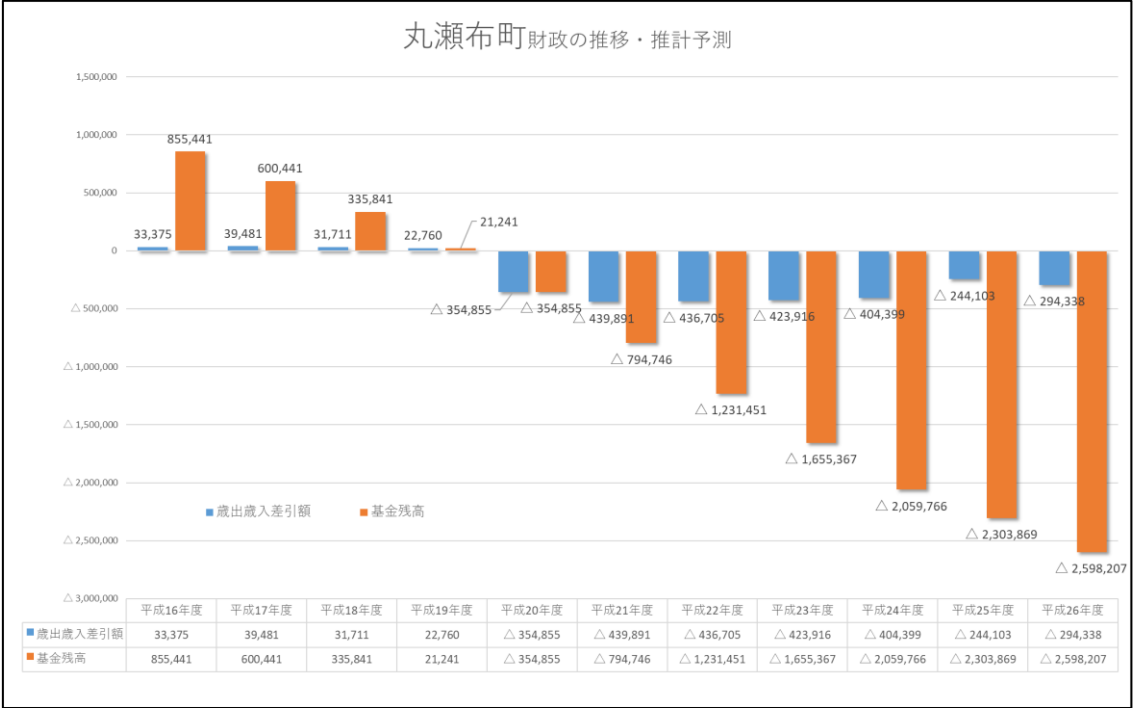
(生田原町)

- 旧遠軽とはまったくグラフが違う形になる。基金が合併前からマイナスになっている。本当はこの前に倒産だが、ずっと行くと基金がマイナス 1 4 億 3 千 7 百万円になる。ただし、青の収支差はだんだん改善していくことになっている。



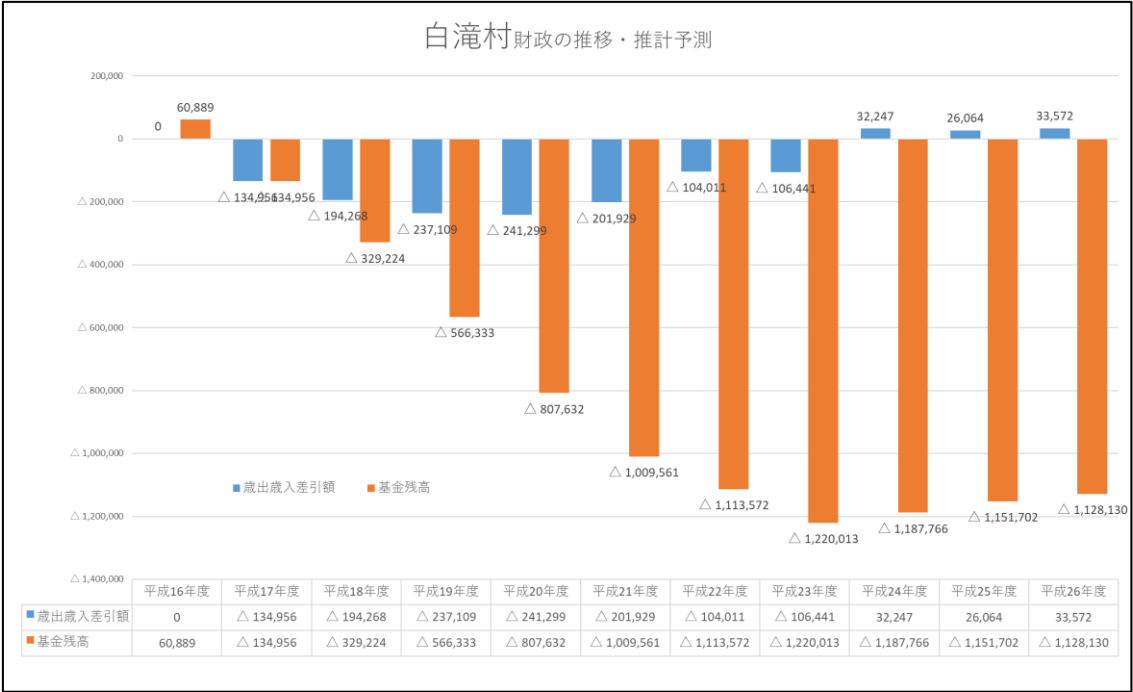
(丸瀬布町)

- 丸瀬布は、合併時には基金をけっこう持っていた。しかし、一気に悪化する。単独でやっていたら一番悪くなるのは、実は丸瀬布。



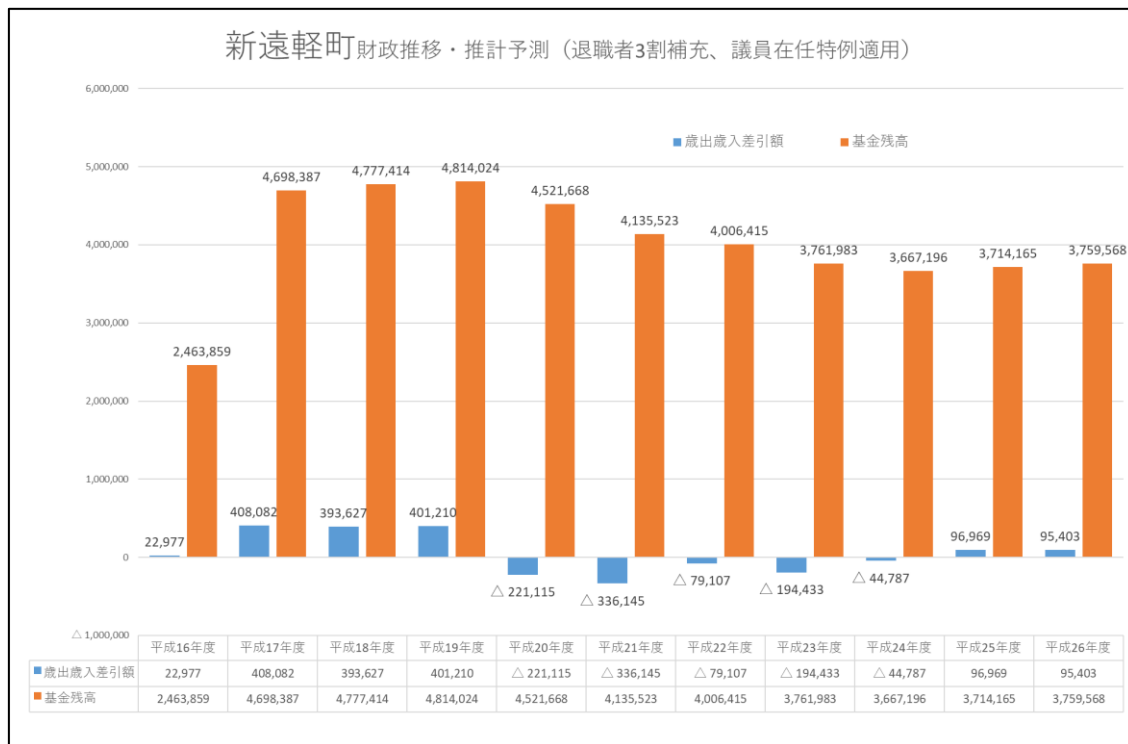
(白滝村)

- ・白滝は最初に良くなっていくと見ていた。収支が早い時期から改善していくことになっている。



(合併新町)

- ・新町の合併前に行った予想。現実はずっと良く推移している。職員の退職補充をこの時は3割で計算したが、実際は2割でやってきた。基金も100億円ぐらいになった。



- ・このような状況を踏まえて町村合併を決めた。これが事実なので忘れないでほしい。先ほども言ったが、絶対にこのような状況に戻してはならない。仕事も出せません、病院代も出せません、学校の費用も出せません、という話になる。その中でこれから先のことを考えてもらいたい。
- ・挑戦は必要。ただ、失敗だったら早く切り替えて次のことを考えることが大事。過去も踏まえて新しいアイデアを考える会議にしてほしい。

6 第2期遠軽町まちづくり会議の進め方について

企画課 中原主幹から資料2-1及び資料2-2により提案し、意見等なし

(休憩5分)

7 各地域まちづくり会議に分かれて討議

- (1) 会長及び副会長の互選について
- (2) 遠軽町第2次総合計画後期基本計画に対する意見について
- (3) 次回開催日程について



8 各地域まちづくり会議の報告

- (1) 遠軽地域（報告者：平野委員）

ア 会長に斉藤委員、副会長に平野委員が選出された。

イ 総合計画については、合宿誘致などを考えると、体育館更新とともに、Wi-fiの整備も必要との意見が出た。

ウ 次回会議は、3月10日（火）18時30分から開催する。



(2) 白滝地域（報告者：鴻上支所長）

ア 会長に矢木委員、副会長に大久保委員が選出された。

イ 総合計画への意見については、次のような意見が出た。

（ア）ごみ処理について、住民生活が多様化しているため、ごみ袋を小さくする。

（イ）道の駅では、東京のものも扱われている。地元のを更に扱ってほしい。

（ウ）人口減に対応し、総合支所を減らし、本庁舎・消防庁舎を新しくする。

ウ 次回会議は、2月27日（木）18時00分 令和にて開催する。

(3) 生田原地域（報告者：由利委員）

ア 会長に由利委員、副会長に大柳委員が選出された。

イ 総合計画に対する意見については、次のような意見が出た。

（ア）具体性に欠ける。数値目標があった方が良い。

（イ）目次があった方が良い。

（ウ）AED設置が広がったのはいいが、設置場所が休館などで使えない場合がある。

（エ）SDGsへの関連付けは良い。

ウ 次回会議は、3月2～6日の間で調整する。



(4) 丸瀬布地域（会津支所長）

ア 過半数の出席がないため、仮決定となるが、会長に鈴木委員、副会長に谷口委員を選出した。

イ 新任者が出席者の半数のため、まちづくり会議ではどのような話をするのかということが話題になった。日頃の問題に対して、どう解決したらいいかをみんなで考えていく。また、提案について、こういう効果があるなどを討議するというような話をした。

ウ 次回会議は、2月18日（火）又は2月20日（木） 18時30分 コミュニティセンターで調整する。

終了 21時00分